

抗がん薬混合調製ロボット ChemoRo the Spike一式の納入に係る仕様書

1	調達物品
	抗がん薬混合調製ロボット ChemoRo the Spike一式
2	内訳及び調達数量
2-1	抗がん薬混合調製ロボット（7段タイプ）×1台
3	技術的要件の概要
3-1	機器内調製環境は100%排気でクラスⅡタイプB準拠する閉鎖的安全キャビネットであること。
3-1-1	調製動作は、溶解液バックからの抽出・溶解先薬品への注入・攪拌や振とう動作による溶解・必要量の抽出・希釈バックへの注入・調製後のバイアル等の廃棄を自動で行うこと。
3-1-2	調製動作は、双腕6軸ロボットアームで行うこと。
3-1-3	輸液バックは調製エリアとは隔離された別ユニットに配置をし、曝露回避が出来ること。
3-1-4	連続調製は連続7調製以上可能なこと。
3-1-5	薬品チェックはGS1データバーを利用して認証出来ること。
3-1-6	調製動作は、秤量機能を搭載してシリンジあるいはシリンジ内にある液剤の重量を秤量できること。
3-1-7	調製結果の画像鑑査は3箇所のカメラでシリンジあるいはバイアルを撮影・保存出来ること。
3-1-8	輸液の針刺し管理はビジョンセンサと輸液メーカの輸液口位置マスタで管理できること。また、OUTポート以外で針刺し管理できること。
3-1-9	コアリング防止の為、一度針を刺した所には刺さないように制御できること。
3-1-10	調製可能対象薬品種数は80種類180規格、輸液40規格以上可能なこと。
3-1-11	バイアルのシュリンク包装に対応できること。
3-1-12	DVO対応が可能なこと。
3-1-13	調製手順により、必要に応じて輸液バックから水分抜き操作が可能であること。
3-1-14	水分抜きした余剰分は他のごみとは別に排出水または貯留する容器へ排出し、取り扱いが簡便にできること。
3-1-15	調製手順により、必要に応じて輸液バックからエア抜き操作が可能であること。
3-1-16	シリンジ調製機能を有していること。
3-1-17	粉末薬溶解動作機能を有していること。
3-1-18	事前溶解動作が可能なこと。
3-1-19	調製済みバックに輸液バック用CSTDを穿刺する機能を有すること。
3-1-20	ランニングコストの観点より調製に使用する針は一般的に市販されている針を用い、専用針を必要としないこと。
3-1-21	給排水設備が必要ないこと。
3-1-22	別途、エアーコンプレッサー設備が必要ないこと。
3-1-23	万が一のトラブルを考慮し開発・製造・販売・保守サービス共に国内に拠点があるメーカー製であること。
3-1-24	既存の注射調剤支援システムと容易に接続が可能なこと。
3-1-25	調製した薬剤の経時的なデータ（薬剤の種類、用量、件数、調製時間等）を集計できる機能を有すること。
3-1-26	既存のトーショー製調剤システムと連携し、抗がん薬混合調製ロボットで調製するデータ連携が可能なこと。データ連携内容については薬剤部と協議し決定すること。
3-1-27	導入における工事（VAV作業、電気、内装等）設置については、承認を得た計画に従って実施すること。変更が発生した場合は、その都度当院担当者と調整すること。
3-1-28	設置スペースを確保するため、既設のバイオハザード対策用キャビネット1台を撤去すること。
3-1-29	本体寸法は監査ユニットも含めてW2,900mm×D1,155mm×H2,150mm以内であること。
3-1-30	制御装置端末（内蔵）、調製対象の呼び出しや薬品の認証の為にGS1データバー対応バーコードリーダ、液晶モニタ、キーボード、専用トレイ電子ペーパー書き換え装置を有すること。
3-1-31	専用トレイにはバイアル抗がん剤・シリンジ・希釈バック（輸液バック）等がセットできること。
3-1-32	患者個人単位の専用トレイが7枚以上ストックできること。

附則

1	仕様書に関する質問がある場合は、令和7年5月28日（水）までに下記にて書面により行うこと。 奈良県立医科大学附属病院 病院管理課用度係 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840番地 FAX 0744-22-4121
---	--